

ついに実現しました!水廻りの救世主「見 HAL 君」

長年に渡り、水管理の労力削減が求められてはいましたが、満足する物が少なく実際には圃場に出向いてバルブを操作すると言うのが実状でした。また、給水バルブごと交換する自動給水栓も有りますが設置コスト増を考えると、低価格で導入コストも低い「見HAL君」に「ついに出来たか」と皆さん感動されます。



6つの特徴

1.自動給水栓バルブに直接取付可能

既存の自動給水栓のフロート式センサーと交換し取り付けられます。

3.遠隔地から給水バルブの開閉が可能

PCやスマートフォンで、複数の給水バルブの開閉が遠隔操作可能になります。

5.大きな電力を必要とせず経済的です

LPWAを使用する事で、電波障害も少なく通信費などの固定費も掛かりません。

2.電源不要でコンパクト設計です

ソーラーパネルからの給電で電源不要、コンパクトだからメンテナンスも楽で、刈取り後の取外しも可能です。

4.水位や給水時間などの任意の設定が可能

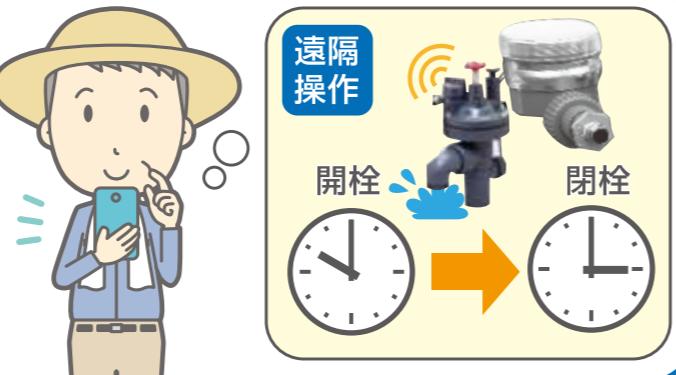
水田単位に給水量や給水時間を登録ができるので、設定どおりプログラム給水が可能です。

6.低コストでの導入が可能

最先端のIoT技術によりバルブの開閉に機械的な部分が少ないため、大幅なコスト削減が実現しました。

使い方の例

- 朝に水位を見廻りながら開けて、設定時間後に自動閉栓させる。
- 任意の期間中に、給水栓の自動開閉を設定時間だけ行う。
- パイプライン全体の給水栓管理を遠隔地から制御可能で、取水制限時などの場合に効果を発揮できます。



※装置の仕様などは変更される場合がございますので、予めご了承ください。

設計・開発

上越ICT事業協同組合

(株式会社アイテック内)

〒943-0807 新潟県上越市春日山町2-5-37
TEL 025-526-4718 FAX 025-526-4719
<http://joetsu-ict.net>

お問合せ

水田水管理の省力化システム

自動給水栓「見HAL君」



ICT活用で
水管管理作業が
大幅に負荷軽減!

ICT活用で 水管理作業が大幅に負荷軽減！

水稻栽培においては水管理作業の負担が大きく、生産規模拡大の障害にもなっています。これまでの自動給水栓は、設定水位により自動的にバルブの開閉を行う事ができましたが、水田まで行かないと水位の設定ができませんでした。また、タイマーで給水時間を制御する事もできませんでした。そこで、稲作の水管理の負担軽減のために、「見 HAL 君」という現在設置されている自動給水栓に取り付け可能で、遠隔地から制御可能な IoT コントロールボックスの開発を行いました。

これにより、給水バルブの開閉を自動化したり、遠隔地から PC やスマートフォン等によるバルブの開閉も可能になります。更に、オプションの水位センサーと組み合わせることで、スマートフォン等から設定した水位によりバルブの開閉を自動で行う事が可能となり、大幅な水管理労力の省力化を実現いたします。

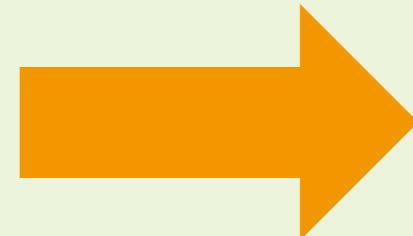
既存の自動給水栓に取り付けてご利用いただけます。



新開発の「IoT デバイス」装置を、既存の自動給水栓のフロートタイプのセンサーと交換するだけで遠隔地からの給水バルブの開閉が可能になります。電源は不要で、デバイス装置に付けられたソーラーパネルからの電力のみで給水栓を開閉することができます。

使用方法は、遠隔地からPCやスマホで給水の制御が可能ですし、実際に水田を見廻しながら開閉操作を行い任意の設定時間後に自動で開閉栓するという事も可能になります。

オプションの水位センサーと組み合わせる事で、水田単位で設定した水位を保つように給水栓を自動開閉できるため、更なる水管理作業の大幅な労働力の削減が実現いたします。



フロート式のセンサーを、
IoT デバイスに交換する
だけです。



機能・仕様



【主な特徴】

- プログラム設定による遠隔給水管理
事前に設定した周期・時間で、自動給水バルブを自動開閉できます。
- 水位を見ながらスマホでバルブを開閉
実際の圃場を見廻しながら、自動給水バルブをスマートフォンで開閉できます。
- 水位センサーとの連動させた給水管理
水位センサーで設定した水位を保てるよう自動給水バルブを自動開閉します。

【仕様】

- 外部電源は不要です。
充電式単三電池 × 4本 + ソーラーパネル
- IoT デバイスの外形寸法：
200×150×50mm
- 水位センサーの外形寸法：
塩ビ支柱 + 150φ × 200mm
- 本体重量：
デバイス + センサーで 1.2Kg(付属品含む)
- 定価：